

コード	名 称	区分	コード	名 称
事業名	443 健康21推進事業	会計	01	一般会計
		款	04	衛生費
		項	01	保健衛生費
		目	01	保健衛生総務費
基本 施策	01 10万市民の健康を維持する	細目	244	健康21推進事業
		細々目	51	健康21推進事業
行革大綱の重点事項番号				
担当部署	コード	130900		担当者
	名称	健康福祉部	健康推進課	氏名
			入本 理	連絡先
			22 - 9653	(内線) 2713

事務事業の概要 (Plan)

対象(誰を、何を)	市民	※対象件数
成果(どうする)	豊かな人生が送れるよう、健康に関するアドバイスにより、健康保持の意識が向上する。	
根拠法令・要綱等	健康増進法・伊賀市健康づくり推進条例	
開始年度	平成 年度	関連事業
終了年度	平成 年度	
H21 事業 内容	すべての市民が健康で快適な生活を送ることができるよう、生活習慣改善の必要性についての知識を普及・啓発し、市民一人ひとりの健康づくりを推進するために「健康づくり講演会」「こころの健康リスナー研修」を開催。	
社会情勢 の変化等	平成19年度までは、健康まつりを生活環境部と共同で実施したが、平成20年度からは、廃止とした。これに替わり20年度は、講演会形式をとったが、参加者は100人未満であった。このことから、健康の職長の更なる活動増強として、21年度は、秋に実施予定の「がん検診・若年者健診」の開催場所にて健康展を実施。	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
健康づくり講演会実施回数		回	目標 2	実績 2	1	1
			目標 2	実績 1		
こころの健康「リスナー研修」実施回数		回	目標 5	実績 6	6	6
			目標 6	実績 6		

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
講演会参加者数		相談者、測定者の増加は、健康保持の意識向上となる。	人	目標 150	実績 150	150	150
				目標 129	実績 150		
リスナー研修受講者		よき傾聴者「リスナー」を育てることは、ストレスを溜めない生活を啓発できる。	人	目標 150	実績 170	170	170
				目標 99	実績 131		

投入コスト	H20 決算		H21 決算		H22 当初予算		H23 当初要求	
	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
直接事業費計(A)	193	184	259	259				
Aの 財源 内訳								
国庫支出金								
県支出金								
地方債								
その他								
一般財源	193	184	259	259				
事業投入人件費(B)	0.2人	1,440	0.2人	1,440	0.2人	1,440	0.2人	1,440
フルコスト(A)+(B)	1,633	1,624	1,699	1,699				

事務事業の評価(Check)

	判断の基準(該当項目に○をつけてください)	備考欄(特記事項)	
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	○	
	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	○	
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業		
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業		
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業		
有効性	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業		
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業		
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業		
	民間のサービスだけでは市場全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	○	
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	○	
達成度	事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業		
	【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】		
	財政状況を考慮し、事業を休止した場合、市民生活への影響が大きい事業		
	【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】		
	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高	○	限られた予算の中で、効率的な事業を行う必要がある。
サービス水準や対象を見直す余地がある。	○		
当初設定した計画を	80%以上100%未満	【計画に遅れが生じている場合、改善策】	
予算の繰越の有無	無	他部署と連携して事業を実施する。リスナー(傾聴者)の活動の場を提供する。	
【予算の繰越がある場合、繰越の種別】			
他の事業主体の活用、事業移管が可能である。			
基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。	○		
【事業名】健康教育事業(補助金分)			
受益者負担を求めることができる事業である。			
全体コストにおける負担構成は適正である。			
コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。			

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	「健康づくり講演会」及び「がん検診」会場での健康器具を使った測定を実施。
【状況】	計画のとおり進んでいる
【詳細】	
昨年度の取組状況	健康づくり推進員(健康の職長)とともに、笑いをテーマとした「講演会」とがん検診会場において「ミニ健康展」を実施。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	清水 健司
【方向性】	現状維持
【理由】	少子高齢社会を健康で心豊かに生活していくためには、健康を増進し、発病を予防する「一次予防」に重点をおいた対策を推進していくことが大切であり、「自分の健康は自分でつくる」という意識をもって主体的に健康づくりに取り組み、家庭や学校・地域・職場などが一体となって支援していくため当該事業は必要であるため現状維持としたい。
現時点における課題、その他	健康推進員(健康の職長)、食生活改善推進協議会の活動が十分に知れ渡っていない。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	昨年度に引き続き、平成22年度は大勢の市民参加が予定される「歯科保健大会」、「シティーマラソン」の会場で事業活動の展示・啓発を実施する。